

家庭と

学校と つなぐ

地域を

城西地区青少協だより

# き ず な

(題字は山内武徳前会長)

No.22

発行日

令和5年9月15日

編集・発行

城西地区青少年  
育成推進協議会

## 地域総ぐるみ朝のあいさつ運動



市長・県議会議員・城西交番・城西小PTA 他(城西小にて) 2022.8.31

### 昨年の活動と今後の 取り組みについて



佐藤 等

城西地区青少年育成  
推進協議会会長

昨年は、三校PTA健全育成連絡会研修会に於いて、児童相談所の方をお招きして講演会を開催し、また四中学校長の要望により、通学路に看板を設置させて頂きました。「朝のあいさつ運動」もPTAの方々が数多く参加されるようになり、子供たちのあいさつも大変良くなっております。

さて、青少協の行動目標はあいさつ運動・啓発キャンペーンなどがありますが、今後も地域の子供達が健やかに成長できる事柄ならば、学校・PTAの要望を当会員と協議し、後援者の立場として応えて行きたいと思っております。

コロナも五類に移行したとはいえ、まだまだ油断は禁物です。感染予防をしながら、コロナ前の活動を再開したいと考えております。

地域の皆様、ご理解の程宜しくお願い致します。

## 四中も一歩ずつ前進



第四中学校  
校長 高橋 祐一

今学校を取り巻く現状は、働き方改革をはじめ、学校運営協議会の導入、教員の資質・能力の向上と合わせ外部人材の積極的活用など、課題を抱えながら前に進もうとしています。そんな中、「新しい時代の学校教育のイメージ」が示されました。ICTや先端技術の効果的な活用がその一つでもあります。

しかし、生徒が生き生きと活動し、学校が目指そうとする姿は以前と比べ何ら変化が生じているものではありません。「こういう生徒を育てたい」「こんな学校にしたい」「こういう教員を目指したい」等に日々思いを巡らせながら一人一人の生徒との関係構築に努めています。

コロナ禍を経験し、改めて当たり前の教育活動を見つめ直し、取捨選

択していくことと、継承し残すべきものを問い直すチャンスと捉えています。次世代の学校づくりのためにはコロナ禍の経験から「再点検」の機会であると考えています。

今後時代の変化とともに、更なるレベルアップを目指すためには、学校でも指導力を高め、組織力を高めることが重要であるとともに、何より今まで以上に保護者や地域と連携していかなくはいけません。英知を結集させ「一歩ずつ前進」を願うところです。これからも本校及び生徒への温かなご支援とご協力をお願いいたします。

## 大切にしたい「当たり前のこと」



城西小学校  
校長 猪野 典由

「腰骨をシャンと立てて、よい姿勢になりましょう。」のかけ声に、「ハイ！」と応えて姿勢を正す子どもたち。

もたち。

この光景から、毎時間の授業が始まります。本校で取り組んでいる「立腰」。姿勢と心を整えるスイッチです。全学級、授業だけでなく全校集会でも、そして掃除の時にも、この言葉がかけられます。「やる気」と「集中力」の持続が期待されます。

本校では、この「立腰」とともに、もう一つ日常化をめざしているものがあります。それは、「あいさつ」「『はい』という返事」「はきものそろえ」、この三つの頭文字をとった「あはは運動」です。

その中でも、あいさつは「いつでも・どこでも・誰にでも」できることを目標としていることです。学校の中だけでなく、地域の中でも明るいあいさつが響くことを願って、毎朝、登校する子どもたちと「おはようございます」のあいさつを交わしています。

長い歴史を誇る城西小学校、これらのことを当たり前にできるよう、子どもたちの心を育んで参ります。地域の皆様には、いつも温かく見守

りいただき、感謝申し上げます。今後とも、本校学校教育へのご支援とご協力をお願いいたします。

### 地域と共に進める3プラス1の約束



小金井小学校  
校長 高久 賢一

今年度一回目の全校集会で校長講話として話しをしたことは、3プラス1の約束については、「挨拶・返事をしっかりとする」「人の嫌がることをしない」「命を守る」そして「家に帰つたらすぐに学習をする」という全校生が共通実践事項として取り組む内容のことです。その中でも、「挨拶」「命」については、四中学校区コミュニティスクールの具体的な子どもの姿としても掲げており、本校のみならず、四中学校区を挙げて取り組んでいる内容となっています。校長として赴任し、三カ月が経と

うとしていますが、挨拶運動や交通指導、さらには、校地内の環境整備等、様々な場面で地域の皆様にお世話になっていきます。コロナ禍も落ち着き、地域の皆様と連携を取りやすい環境となってきましたので、今後

## 城西地区の歩み (五)

### 一、町名会名の由来 (一)

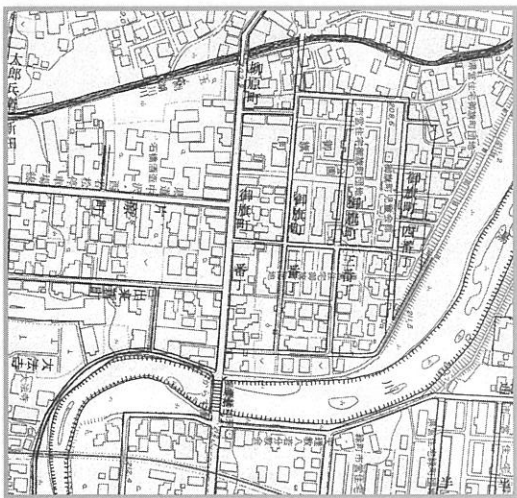
片柳町の町名会名の由来は、柳原組町と寛永一三年(一六三六年)に開かれた片原町それぞれ一文字を取って町名とした。(現在は御旗町)柳原組町には東西に走る通りが四条あって、南から柳原組町一番丁・同二番丁・同三番丁・同四番丁の順に整然と並んでいた。

(戊辰若松城下明細図では柳原組町が御旗町と書かれている)足軽同心の住んでいた町であった。四番丁の北側に足軽たちが弓を習う的場、鉄砲を習う角場があった。西端の柳原町は商人が住んでいた。また、この地は昔旗本屋敷があった所とも言われる。また、河原町新丁(現御旗町)という町名もあり、材木町の北

もさらに皆様の力をお借りしながら、開かれた学校づくりを進め、3プラス1の約束を実践していきたいと思えますので、どうぞよろしくお願いたします。

端に続いた南北の通りは北に向かって柳原組町一番丁の東西の大通りに出る。この通りを河原町(現川原町)の後に新しく出来たので「河原町新丁」と呼び又俗に「出来新丁」と読んでいた。

昭和四十年十一月二十日、「会津若松市住居表示整備事業」により現在の御旗町となる。



# 講演会が開かれました

福島県会津児童相談所 相談判定課長

太田 ふみ氏

## それって虐待なの？

令和四年十一月十七日、四中にて三校PTA健全育成連絡会研修会において、福島県会津児童相談所 相談判定課長太田ふみ氏を招いて講演会が開かれました。私たちが何となく“しつけ”と考えている行為も虐待と認知されることがあります。

〈身体的、性的虐待〉は言うまでもありません。

### 〈心理的虐待〉

- ・無視したり拒否的な態度を取る
- ・言葉でおどす
- ・兄弟間で極端に差別扱いをする
- ・子どもの心を傷つけることを言う
- ・子どもの前で家族に暴力をふるう等

### 〈ネグレクト〉

- ・適切な衣食住の世話をしない
- ・病気になっても病院に連れて行かない

- ・子どもを家に残して度々外出する
  - ・家に閉じ込める
  - ・子どもを車の中に放置する等です。
- 児童相談所は、虐待の対応だけでなく、子育ての相談や悩みごとにも対応しています。



## 皆様の御協力お願いします

藤田前校長の要望により、四中の校庭のフェンスに看板を設置致しました。生徒達の安心・安全の為に御協力お願い致します。

## のぼり旗設置作業(四月九日)

城西小・四中PTA会長の呼びかけで大勢の役員の方々にご協力頂きました。ありがとうございました。

